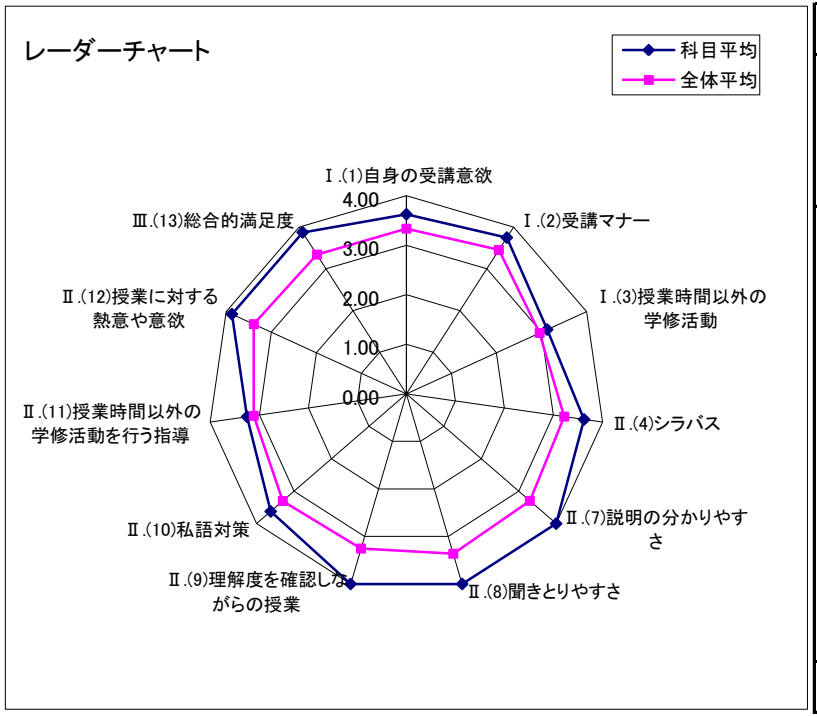
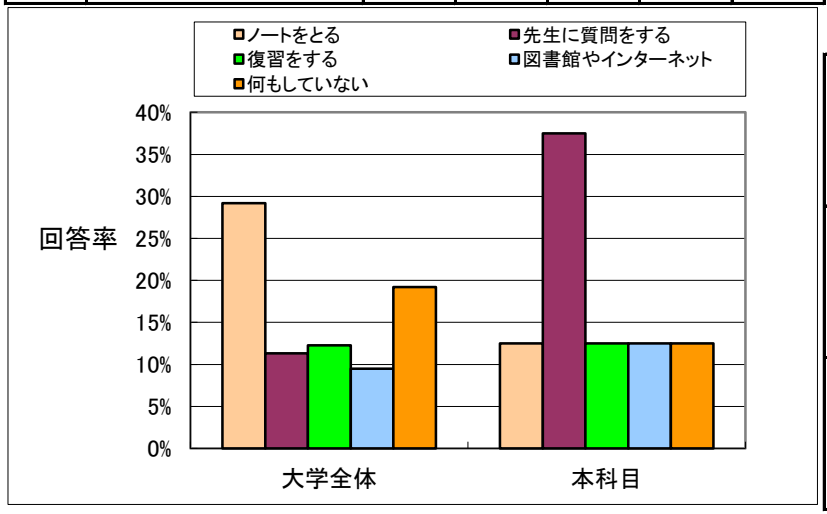
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.63	3.33
	Ⅰ.(2)	3.75	3.45
	Ⅰ.(3)	3.13	2.96
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.63	3.22
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	4.00	3.30
	Ⅱ.(8)	4.00	3.36
	Ⅱ.(9)	4.00	3.25
	Ⅱ.(10)	3.63	3.30
	Ⅱ.(11)	3.25	3.11
	Ⅱ.(12)	3.88	3.39
総合評価	Ⅲ.(13)	3.88	3.34

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

<※複数選択可項目>		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(14)	授業を理解するための工夫	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	12.5%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.50	3.25
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(12)	3.77	3.28
総合評価 Ⅲ.(13)	3.88	3.34

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度　後期
時間割番号	3245
科目名	日本経済史
教員名	

①授業計画の達成度について

回答の選択肢が昨年度から変更されているため、直接の比較ができないのが残念であるが、設問4については、昨年度においては4分3が肯定的な回答を寄せていた。本年度は100%が肯定的な回答を寄せており、この点においては改善されたということであろう。昨年度もシラバスを読んだ学生は9割以上が「役だった」と答えていたので、シラバスを読ませる、読まなければならないものであると意識させるという工夫が成果を上げたと言えるだろう。
設問5については、昨年度は4分の3の学生が難しいと感じていた。本年度は40%強であり減少している。授業の内容自体は変化していないので、分かり易く説明することができたのか、学生のレベルが上がったのかどちらかであろう。本年度は人数が少なかったことが最も大きな要因かもしれない。設問6は設問5とパラレルの関係でなければならないはずだが、かなり違いがある。私にも設問の意図がわからないが、難易度が低かったわけではないということだろうか。

②授業の進め方について

設問7は100%の学生が説明が分かり易かったと感じている。また設問8の聞き取りやすさについても100%の学生が聞き取りやすかったと感じている。
設問9についても100%の学生が理解度を確かめながらすすめていると感じている。これらは受講人数が少なかったことが寄与していると思われる。
設問10については私語のレベルをどのように考えるかで回答が分かれたのではないか。本講義は学生とのやりとりを積極的に行ったので、多少の脱線も含めて活発な発言があった。これを私語と捉えると、多かったという事になるだろうが、授業の一環であると考えれば、私語はほとんどなかったと教員としては感じている。
設問11については80%以上が学習活動の指針を得たと考えている。テキストを指定し、次の講義の内容を予習できる状態にしたことが奏功したのであろう。
設問12については90%近い学生が教員の熱意を強く感じてくれている。私の唯一の自負が講義に対する熱意のみであるので、これは嬉しい評価である。
設問13については全体平均よりも20%以上高いスコアが出ていることを率直に喜びたい。学生が満足してくれるかどうかということが最も重要なポイントであるからである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

最初に述べたように回答の選択肢が変わったので単純に比較できないが、昨年より全体に学生からの評価が高くなった。私自身もより良い講義を行うよう努力しているが、何よりも人数が少なかったこと(登録者16人)が大きいと思う。学生の興味に沿って詳しく解説した箇所が多かったため、講義全体の流れとしては精粗のあるものとなったが、学生の満足度が高いということを可としておきたい。本年度でこの講義は不開講となるが、最後に少し「マシな」講義ができたのかもしれない。

奈良産業大学